# 神秘学ポエジー 風遊戯 photopos 127

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 254集】 photo ヴァージョン

## photopos 3151-3175

《2023.4.25～ 2023.5.19》

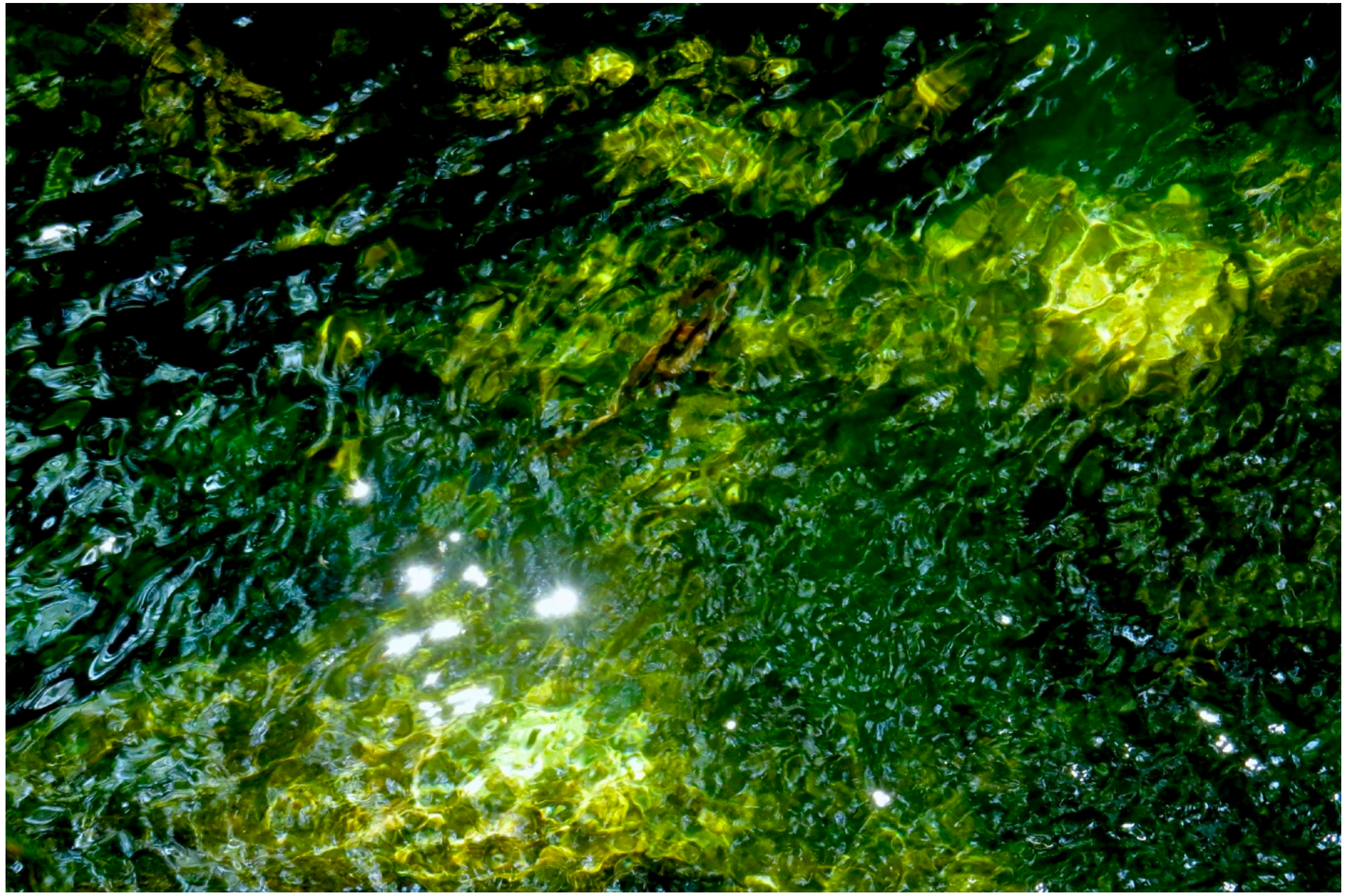
神秘学遊戯団

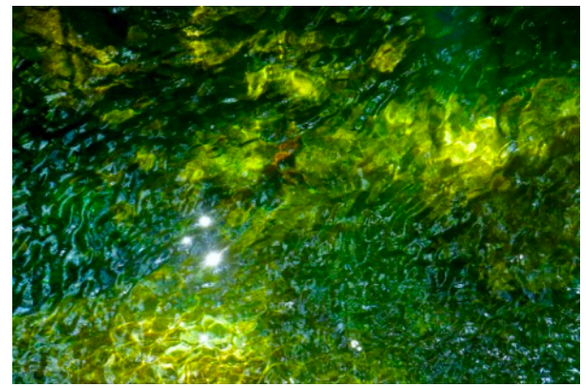
☆photopos-3151　　2023.4.25

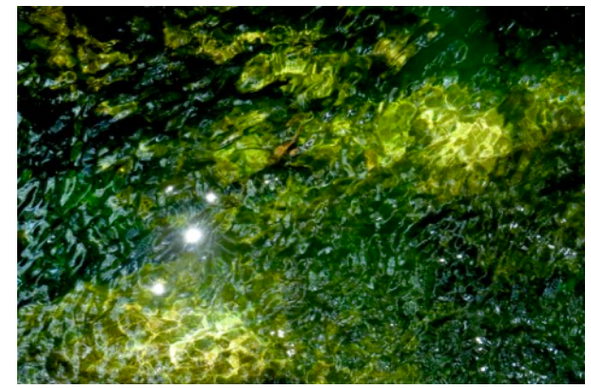
聖が極まれば
俗ともなり
俗が極まれば
聖ともなる

聖は俗のなかでこそ
その生を深め
俗は聖によってこそ
その生を甦らせる

光が闇のなかでこそ
輝くように
闇が光によってこそ
解き放たれるように







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3152　　2023.4.26

忘れていた歌を
思い出すとき
忘れていた心も
歌いはじめる

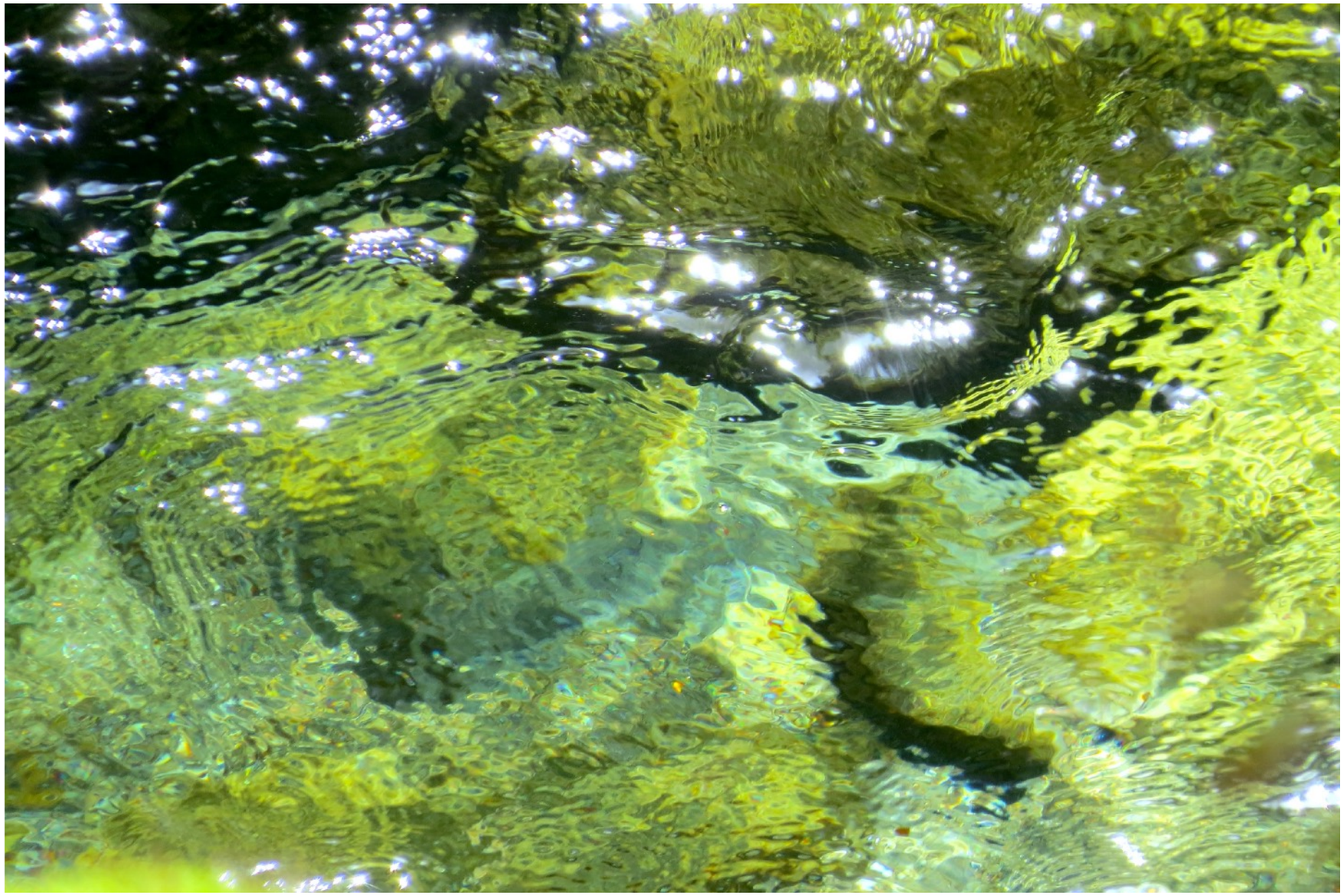
　それは
　原風景の歌なのか
　それとも
　幻風景の歌なのか

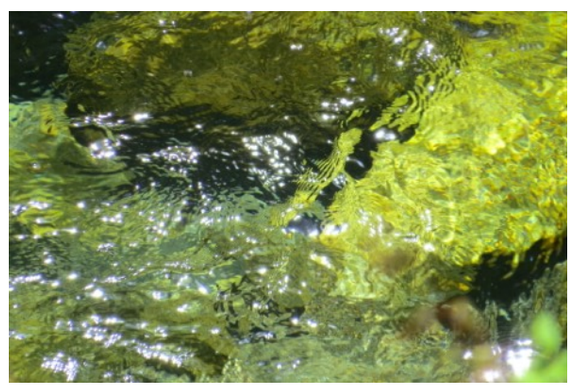
忘れていた言葉を
思い出すとき
忘れていた心も
語りはじめる

　それは
　祈りの言葉なのか
　それとも
　憧憬の言葉なのか

忘れていた花を
思い出すとき
忘れていた心も
咲きはじめる

　それは
　わたしの花なのか
　それとも
　わたしとあなたの花なのか





※愛媛県久万高原町・面河渓にて

# ☆photopos-3153　　2023.4.27

なんのために
それをするのだろう

「ために」の
ひとつひとつを
じぶんに問いかけてみる

その果てには
なにがあるだろう

この生をもこえた
その先に
なにが見えるだろう

そうすることで
あらためて
いま
なんのために
それをするのかを問いなおすのだ

だれのために
それをするのだろう

「ために」の
ひとりひとりを
じぶんに問いかけてみる

その果てには
だれがいるだろう

この生をもこえた
その先に
だれが見えるだろう

そうすることで
あらためて
いま
だれのために
それをするのかを問いなおすのだ

※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

# ☆photopos-3154　　2023.4.28

世界は
閉じてはいない

世界には
外があるから
外から訪れるものがある

そして
みずからその外へ
赴くこともできる

けれどそこには
門があり
門番が立っている

門番の赦しなしでは
外にはでられない
赦しをもらうためには
それなりの準備が要る

その門を入ると
そこは世界の内につながっている

世界には
内があるから
内から訪れるものがある

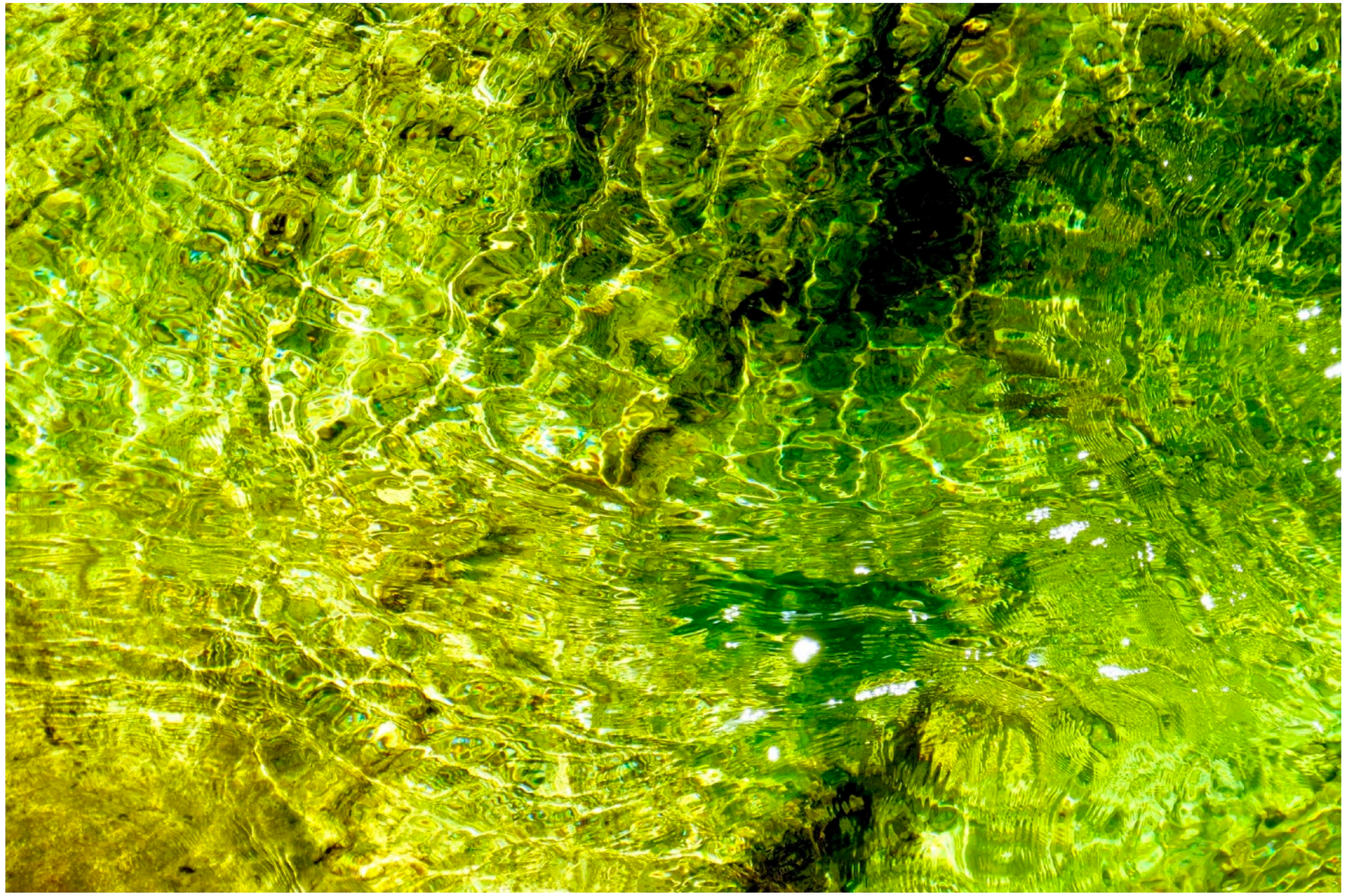
そして
みずからその内へ
赴くこともできる

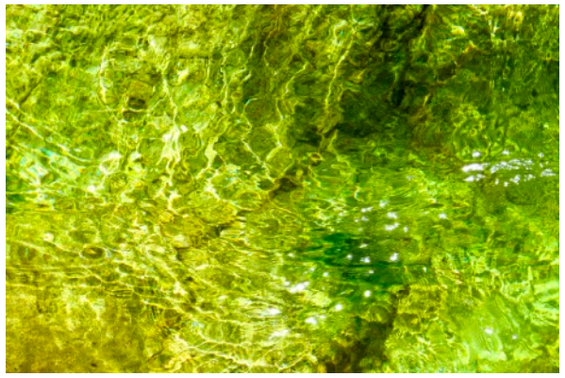
けれどそこには
門があり
門番が立っている

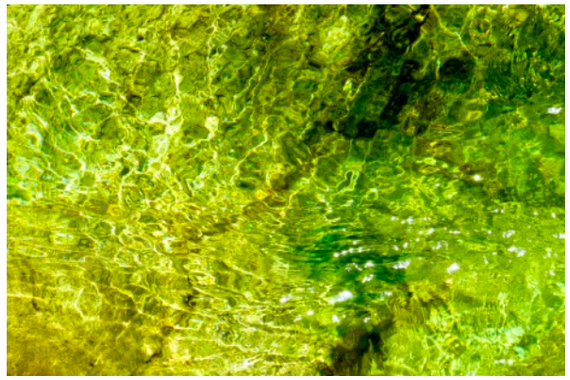
門番の赦しなしでは
内にはでられない
赦しをもらうためには
それなりの準備が要る

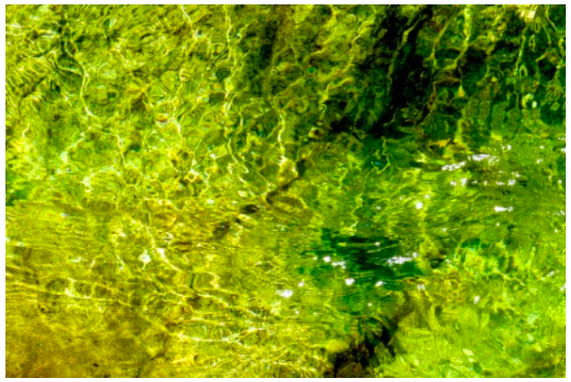
その門を入ると
そこは世界の外につながっている

世界を生きるということは
その外と内とのあいだで
学ぶということだ
そして学び終えるまでは
そのことを知らずにいる









※愛媛県久万高原町・面河渓にて

# ☆photopos-3155　　2023.4.29

立ち止まる

先が見えないときは
なにもしないで
立ち止まる

しないでいることは
することよりも
むずかしい

することで
考えないまま
与えられた意味が生まれ
それしか見えなくなるから

立ち止まり
しないでいる

静かに感じ
じっと考え
見えないところで
働いている力と
ともにあろうとする

しないでいる

そのたしかな力を
持てますように

※愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3156　　2023.4.30

壁を
壁だと思わなければ
壁は見えない

壁を
壁だと思うとき
壁は見えはじめる

壁の
外があることに気づくとき
壁の内にいることに気づく

壁が
あたりまえだと思う時
壁の外は意味をもたない

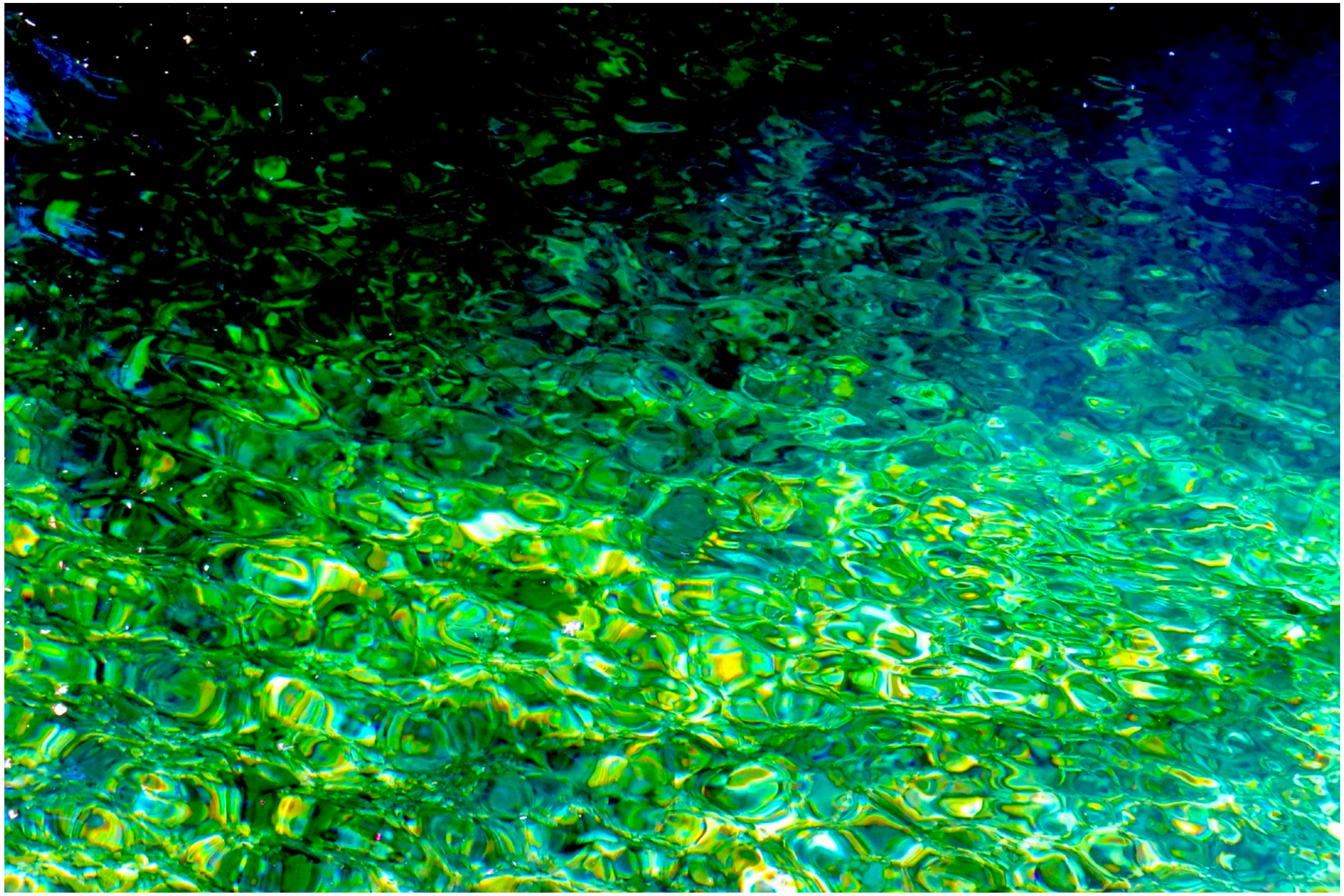
壁の
外を見たいと思ったとき
壁の外は意味をもちはじめる

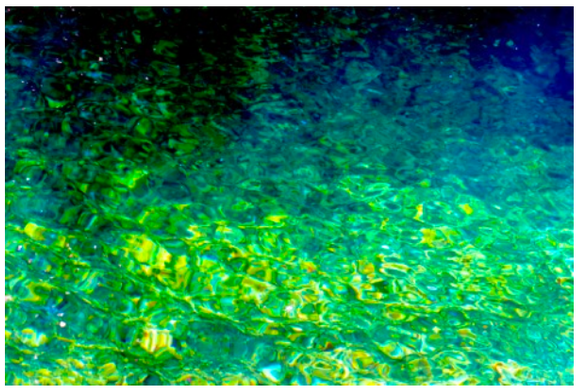
壁を
越えようとするとき
壁からの出口が必要となる

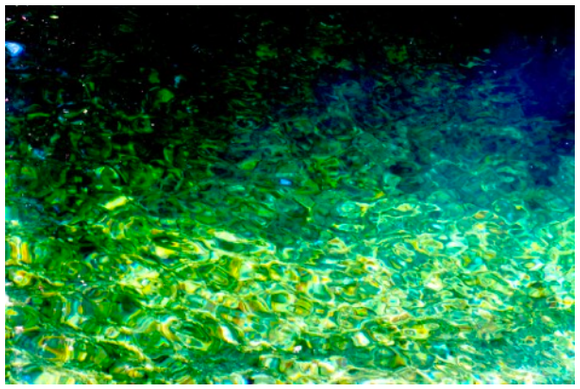
壁を
越えるためには
じぶんの壁をひらかねばならない

壁が
変わらないと思ったとき
じぶんの壁はひらかれない

壁は
変わると気づいたとき
壁はひらかれはじめる







※愛媛県久万高原町・面河渓にて

# ☆photopos-3157　　2023.5.1

生きるには
理由はいらないが
戦うには
理由がいる

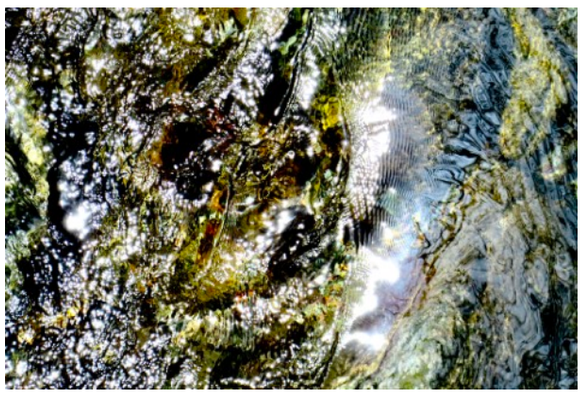
みんなが戦っても
たしかな理由がなければ
決して戦わない
その戦いにこそ抵抗する

決められている
ということは
理由にはならない

臆病なのではない
自由のためだ
天邪鬼ではない
自由のためだ

自由のためならば
戦いを拒むものではないが
戦いのための戦いではない
そのことが必要条件となる

自由を生きるために
わたしは生まれてきた
戦うために
生まれてきたのではないのだから



※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3158　　2023.5.2

なぜ
と
問うまえに

驚き
はないか

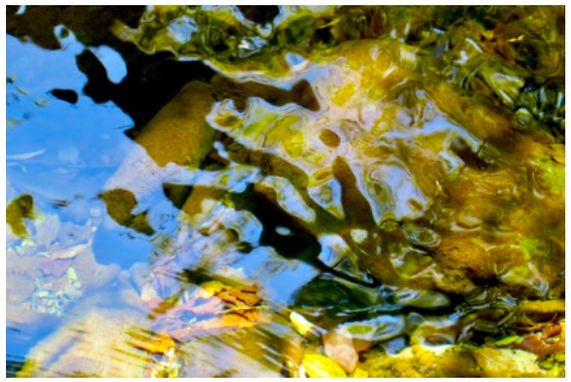
驚くまえに
不思議はないか

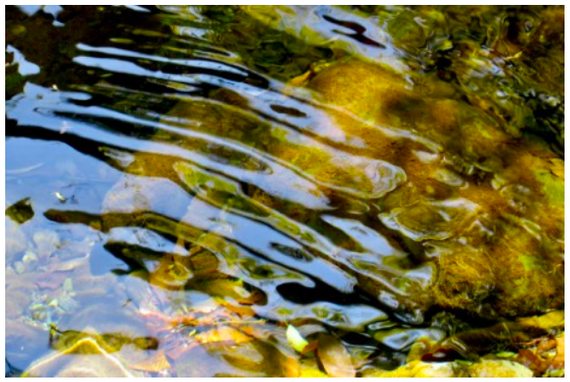
不思議のまえに
感動はないか

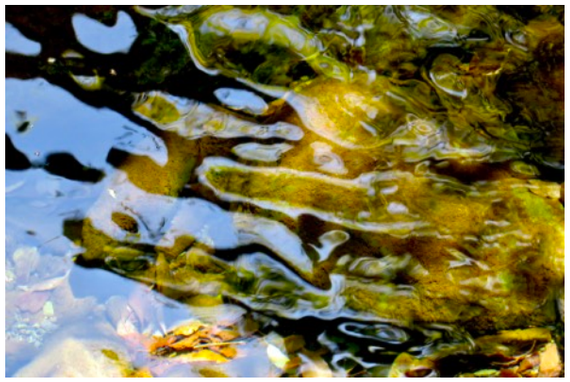
心は
それになり
それが
心になる

そんな奇跡を
生きるとき

はじめて
一行の詩は
生まれるだろう







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3159　　2023.5.3

恐れは
どこから
やってくるのか

わたしを
脅かすもの
それが
不安となり
恐れとなるのだ

たとえそれが
外から
やってくるとしても

恐れるのは
わたしだ

恐れは
わたしの中から
やってくる

わたしの中にある
わたしを
脅かすものが
さまざまな姿をとりながら
わたしを襲ってくる

わたしは
それを恐れ
それから
逃れようとするが

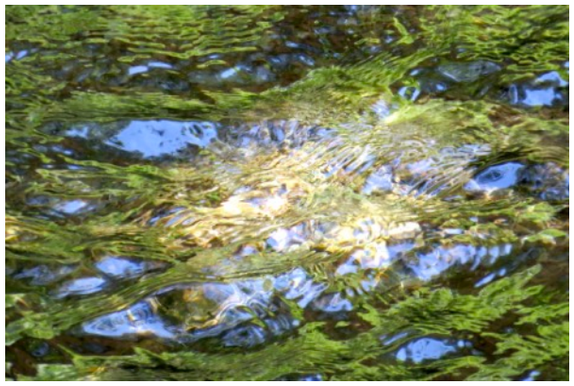
わたしの中に
恐れがあるかぎり
脅威がなくなることはない

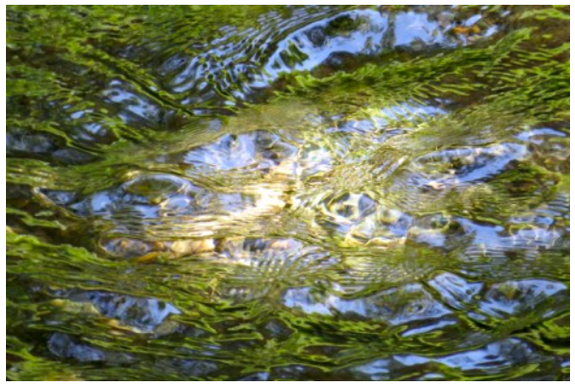
訪れる脅威から
逃れようと
恐れを啓蒙し
仲間さえつくり
ともに立ち向かおうとしても
恐れは増すばかりだ

恐れから
逃れるために
できること

それは
恐れという
マスクを外し

こんな顔かい!?と
じぶんでじぶんを
ふりかえって
その顔を見ることだ





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3160　　2023.5.4

じぶんになる
ということは
どういうことだろう

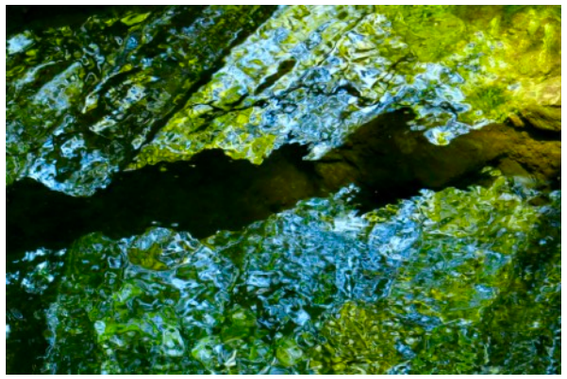
じぶんではない
じぶんは
じぶんではないのか

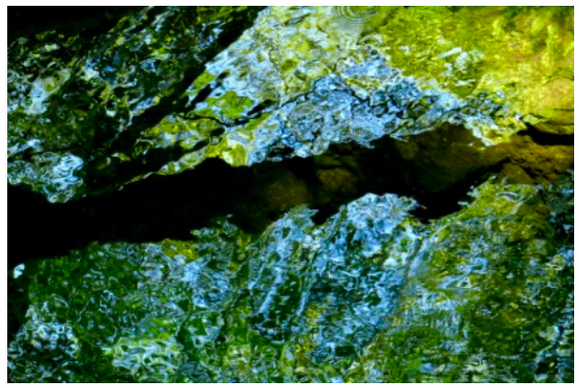
まだじぶんではない
じぶんだから
じぶんでありたい
そんなじぶんになろうというのか

じぶんでありたい
じぶんと
じぶんでありたくない
じぶんと

ふたつの
じぶんをかかえながら
わたしたちは
ながい
まがりくねった
みちをあるいていくのか

そのはてに
じぶんでありたい
じぶんになれるまで





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3161　　2023.5.5

ことばが
ひらいてくれる
見えない扉がある

それまでは
そこに
扉があることにさえ
気づけなかった
そんな世界がひらかれる

けれども
そのことばは
だれにでも
同じ扉となるとはかぎらない

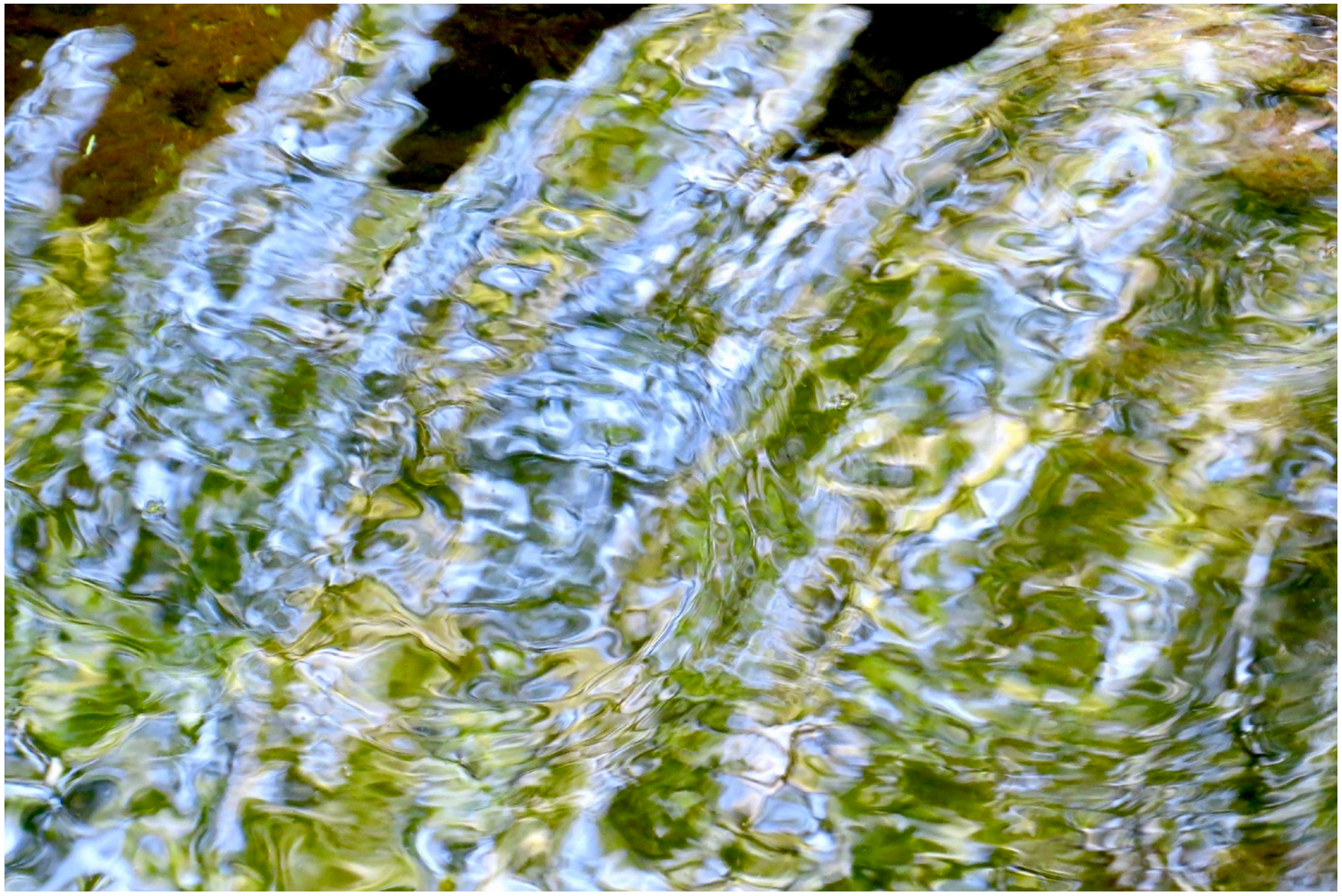
扉にはならない
ただのことばでしかないことも
おなじことばが
世界を閉ざす扉となることさえある

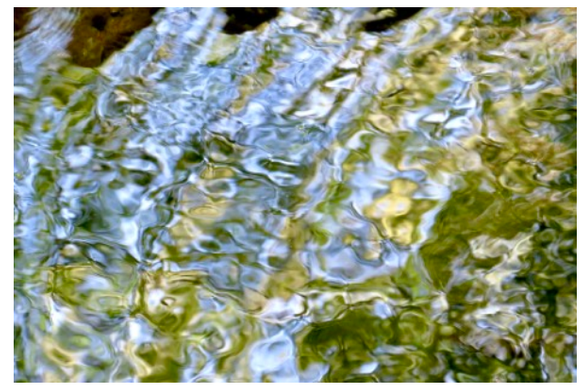
ことばは
その使い方を知り
それをたしかに使うことで
はじめて扉をひらく鍵となる

けれど
そこにひらかれる世界には
また別のことばによって
はじめてひらかれる扉があるだろう

扉の向こうに
どこまで扉が続いているのかわからないが
わたしたちは新たなことばをたよりに
扉を見つけ
それをひらいてゆかねばならない

それらの言葉や扉が
いったいなにを意味しているのかを
ほんとうに知ることができるときまで





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3162　　2023.5.6

謎
とされているものも

その言葉の
迷路を
たどっていけば

やがて
出口に
辿り着けるかもしれない

なぞなぞが
問いかけに対する
言葉の遊びであるように

謎もまた
言葉の遊び
なのかもしれないから

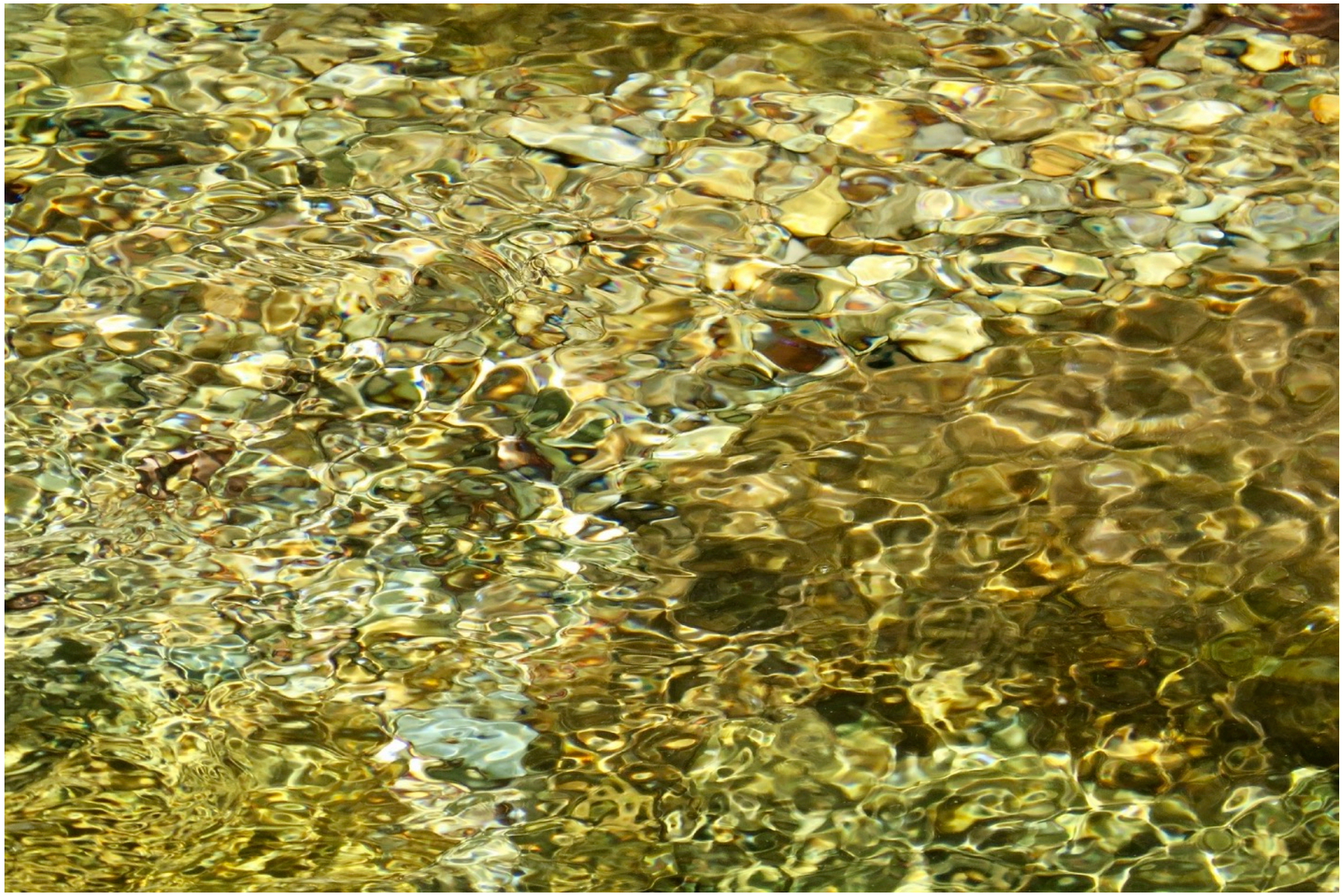
偶然
とされているものも

その然りの
偶発を
確かめていけば

やがて
然るべき源を
見つけ出せるかもしれない

たまたまが
意図に対する
思いがけなさであるように

偶然もまた
狭い意図を超えた現象
なのかもしれないから



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3163　　2023.5.7

理性だけでは
生きられないから

生きるために
愛する情熱と両輪で進む

ときに愛に心乱されながら

合理性だけでは
生きられないから

生きるために
矛盾に出会いともに歩く

ときに矛盾に引き裂かれながら

正しさだけでは
生きられないから

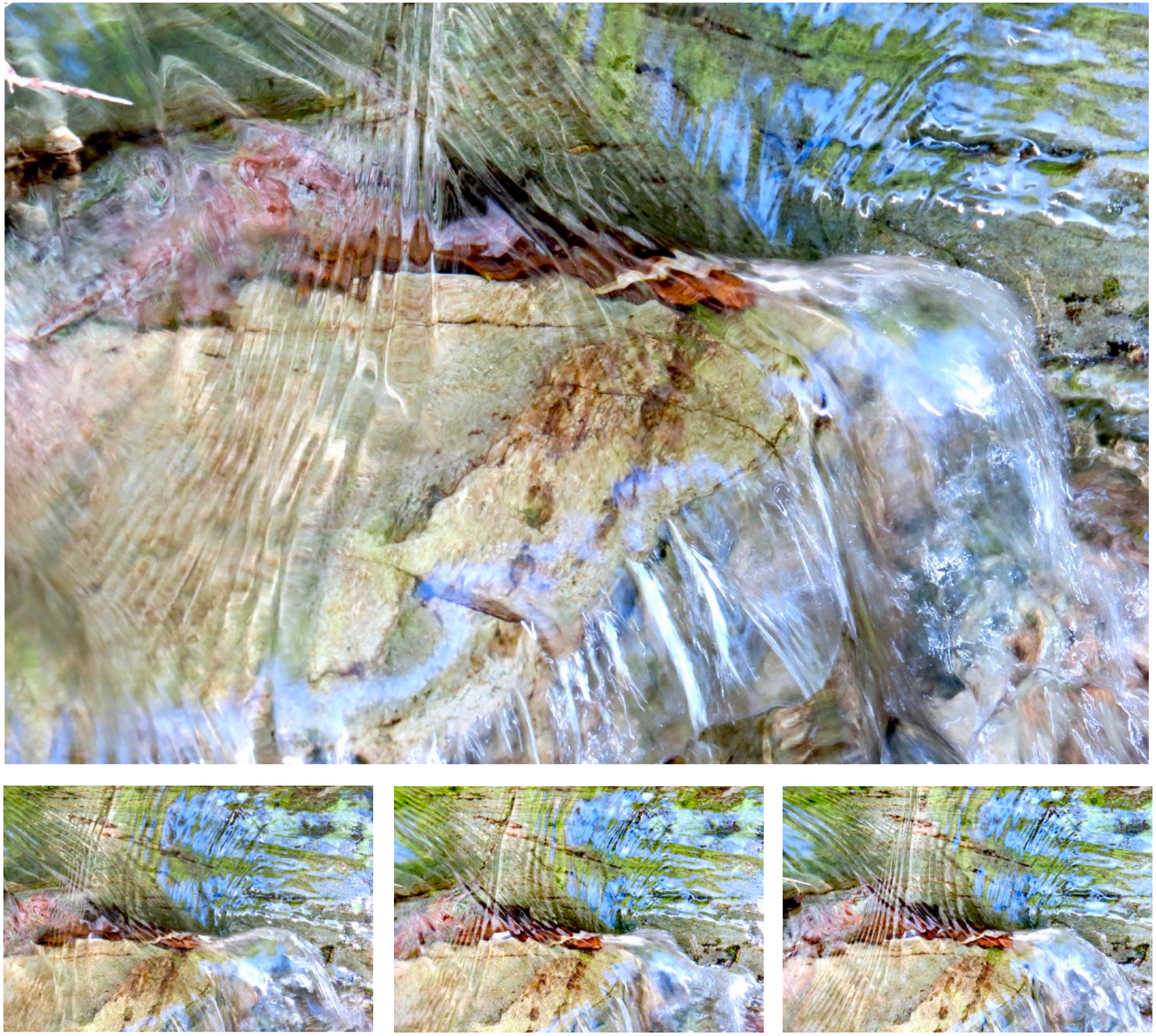
生きるために
誤ることを恐れず乗り越えていく

ときに誤ったみずからを責めながら

予測できることだけでは
生きられないから

生きるために
予測できないことに出会いつづける

ときに未知のなかで迷い続けながら



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3164　　2023.5.8

わたしは
いったいだれのもの

わたしのからだは
だれのもの

（からだはめぐり）
（わたしのもとへ）

わたしのこころは
だれのもの

（こころはめぐり）
（わたしのもとへ）

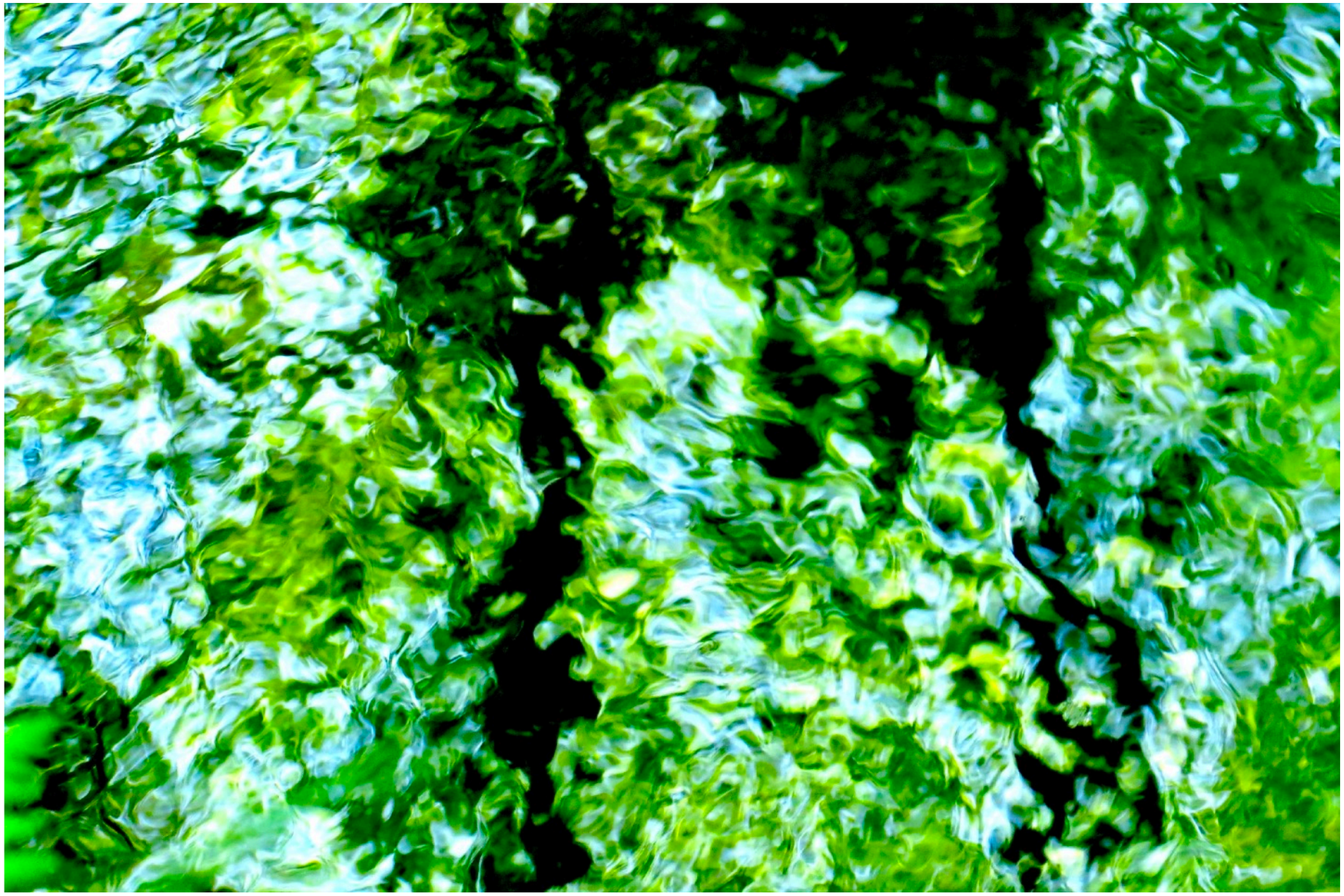
わたしのことばは
だれのもの

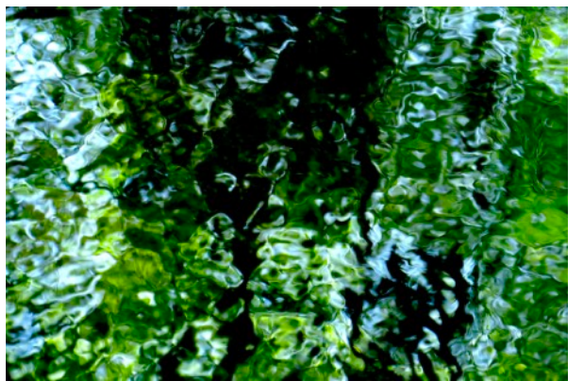
（ことばはめぐり）
（わたしのもとへ）

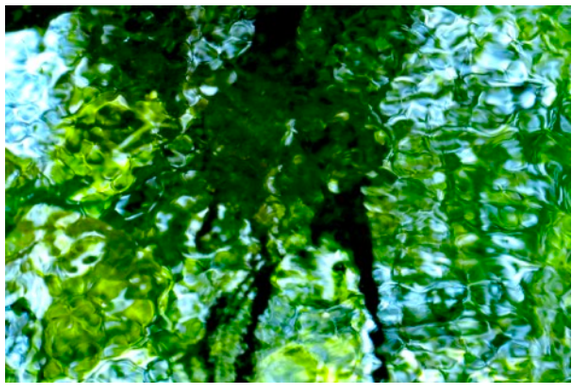
わたしのうたは
だれのもの

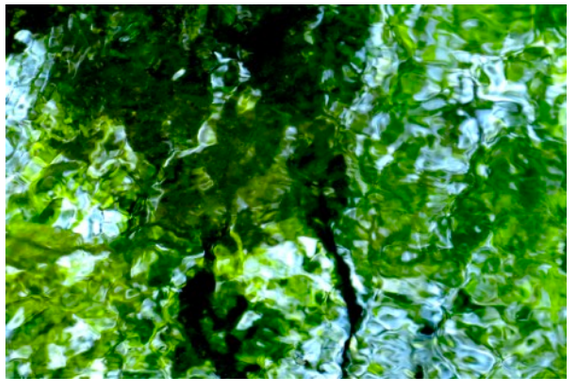
（うたはめぐり）
（わたしのもとへ）

わたしは
わたしにたくされた
いのちとともに
わたしをいきる









※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3165　　2023.5.9

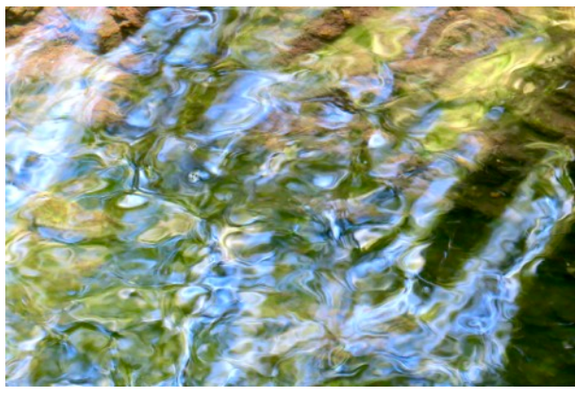
からだを
自在に
変えることは
できない
けれど

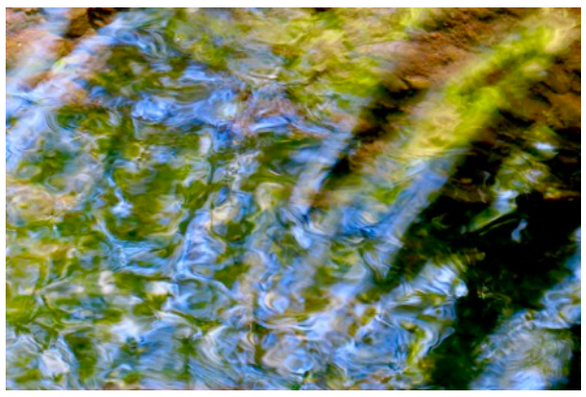
こころなら
自在に
メタモルフォーゼできる
はずなのに

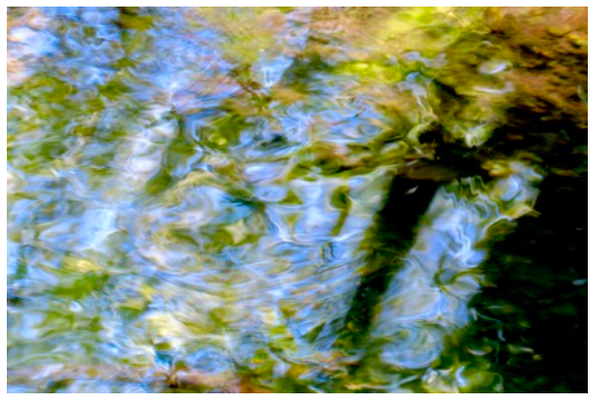
こころこそ
変わることができず
じぶんで
じぶんを
狭いこころのなかに
閉じ込めてしまうのは
どうしてだろう

こころは
見えないけれど
からだよりも
なにかにもっと
縛られているようだ

こころを
自由にするために
こころを
縛っているものを
見つけることができますように







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3166　　2023.5.10

ふれることは
できなくても
見ることは
できる

見ることで
ふれるのだ

眼は
手のように
それにふれる

見ることは
できなくても
想像することは
できる

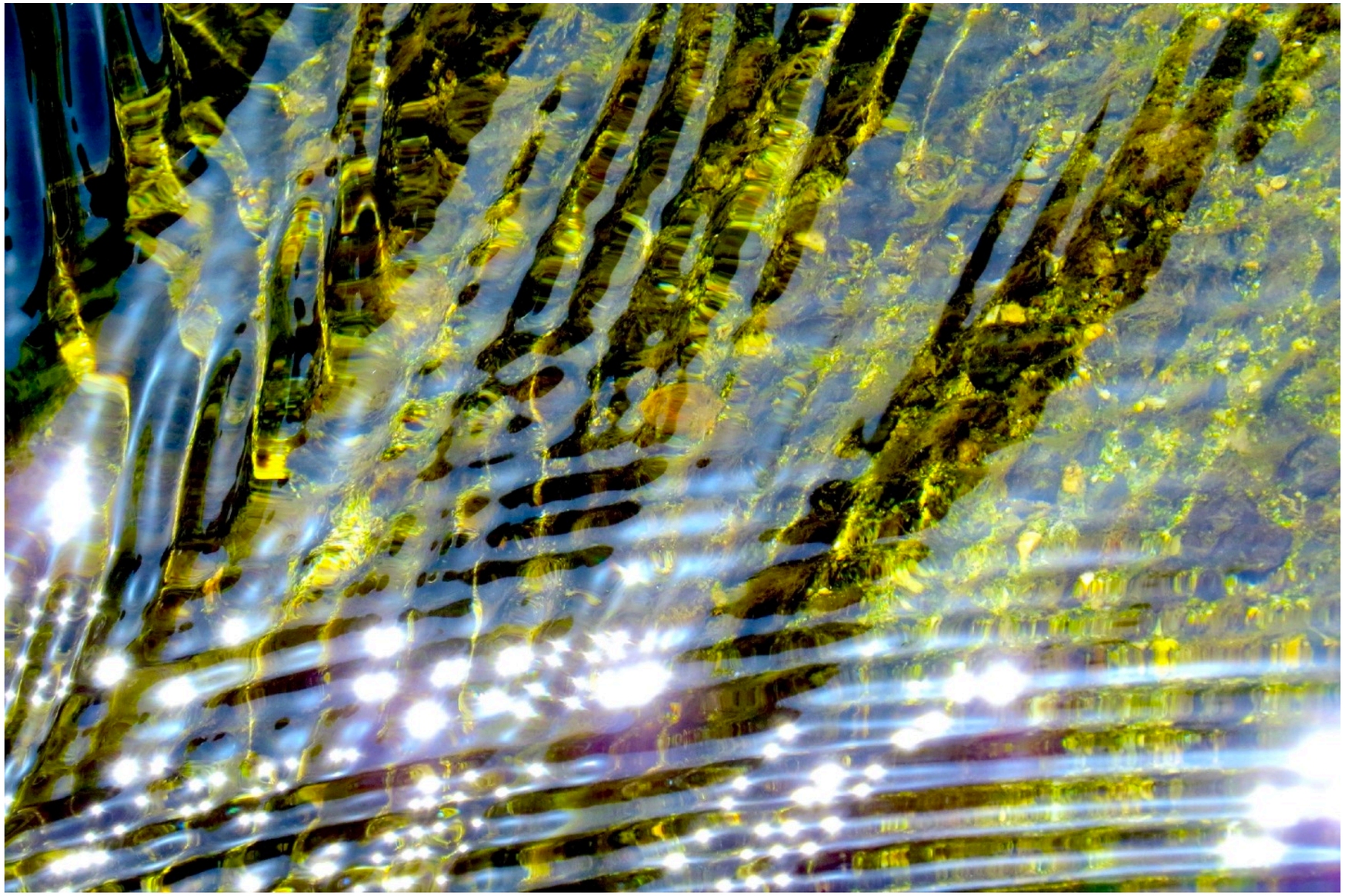
想像することで
見るのだ

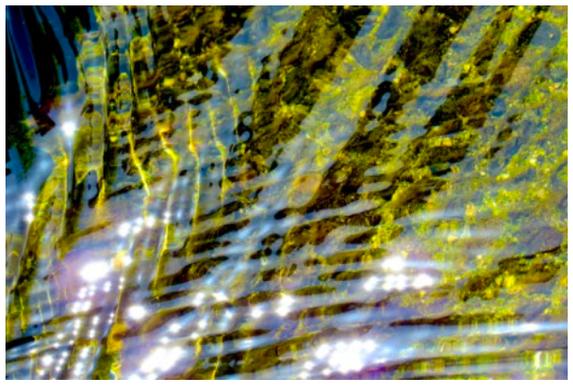
心は
眼のように
それを見る

想像することさえ
いまはできなくても
言葉を得ることは
できる

言葉に導かれ
想像するのだ

ポエジーは
心を遊ばせ
想像を創造する





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3167　　2023.5.11

なにが善なのか
なにが悪なのか

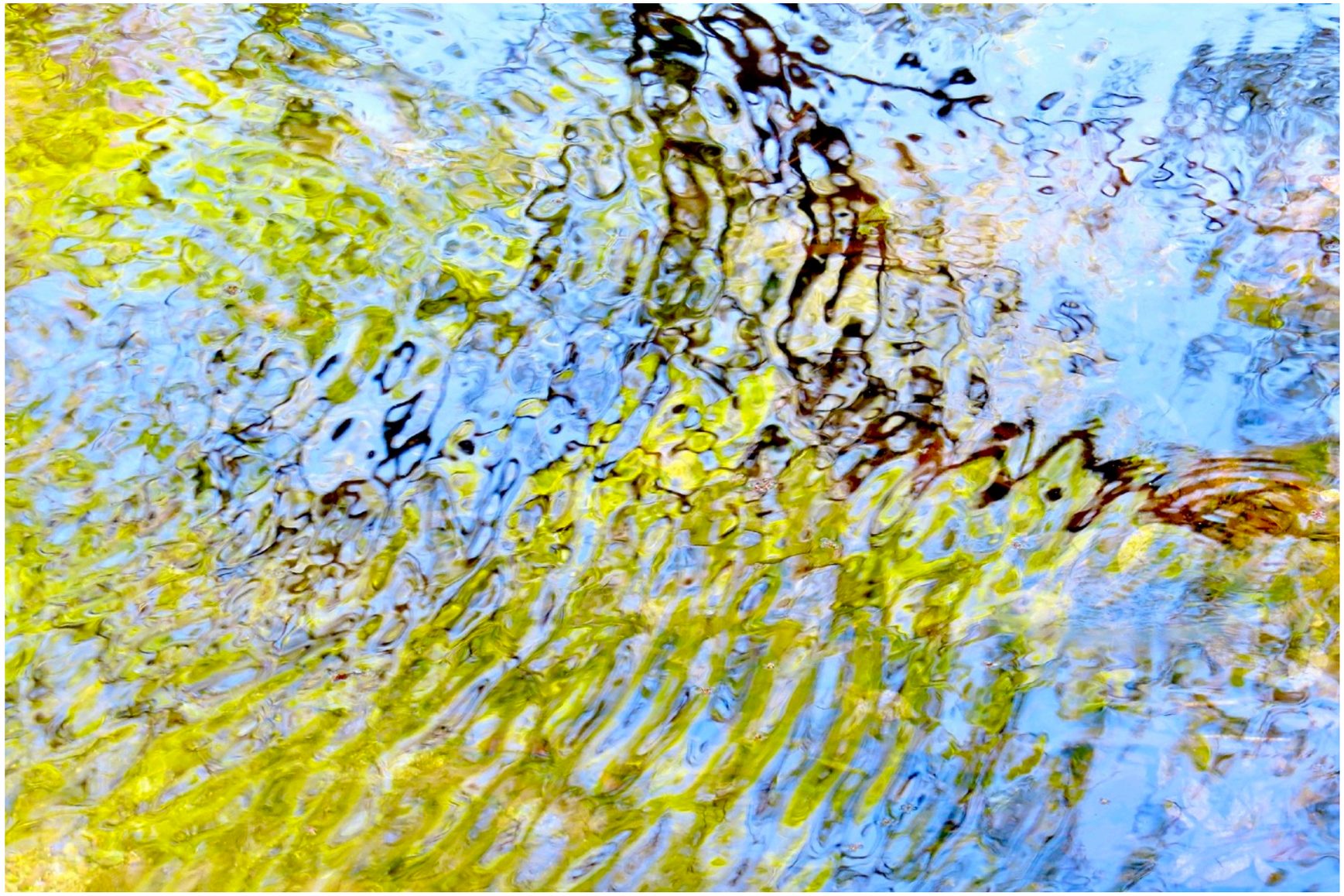
なにが本当なのか
なにが嘘なのか

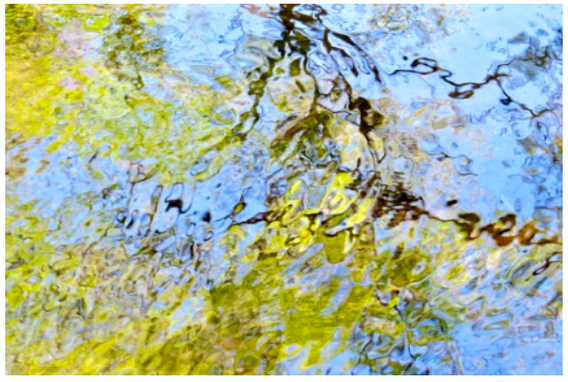
わからなくなるのは
善と悪が
本当と嘘が
パラドクシカルに
むすばれているからだ

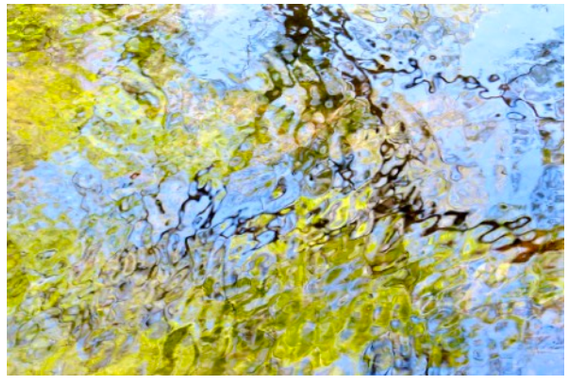
善も魔となることがあるように
悪も正機へと転ずることがあり
本当も間違うことがあるように
嘘も誠となることがある

必要なのは
そのパラドックスに気づき
矛盾を生きようとすることだ

それが
善と悪
本当と嘘が
つくりだしている
迷路からの出口となる







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3168　　2023.5.12

見えないものも
心の
眼をひらけば
見えてくる

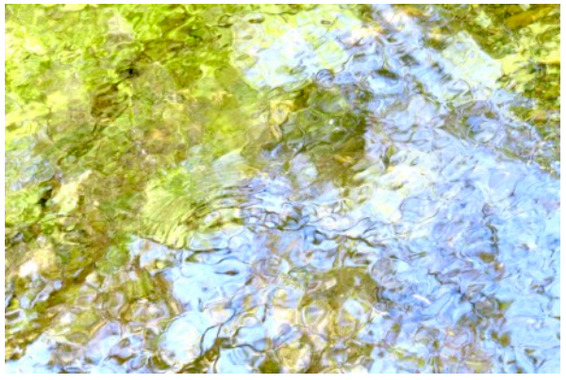
光の織りなす
かたちのダンス

聞こえないものも
心の
耳を
ひらけば
聞こえてくる

音の織りなす
うたのポエジー

わからないことも
心の
門を
ひらけば
流れてくる

智の織りなす
エーテルのコスモス



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3169　　2023.5.13

世界を生きる
ということは
わたしたちの想像世界を
生きられる世界に投影する
ということである

生きられる世界は
ときおり
わたしたちの想像世界を
裏切りもするから

その裏切りのありようによって
それに応じた世界が
あらたに現れてくる

わたしたちはそれに驚き
ときに喜び
ときに怒り
ときに悲しみ
ときに楽しみもする

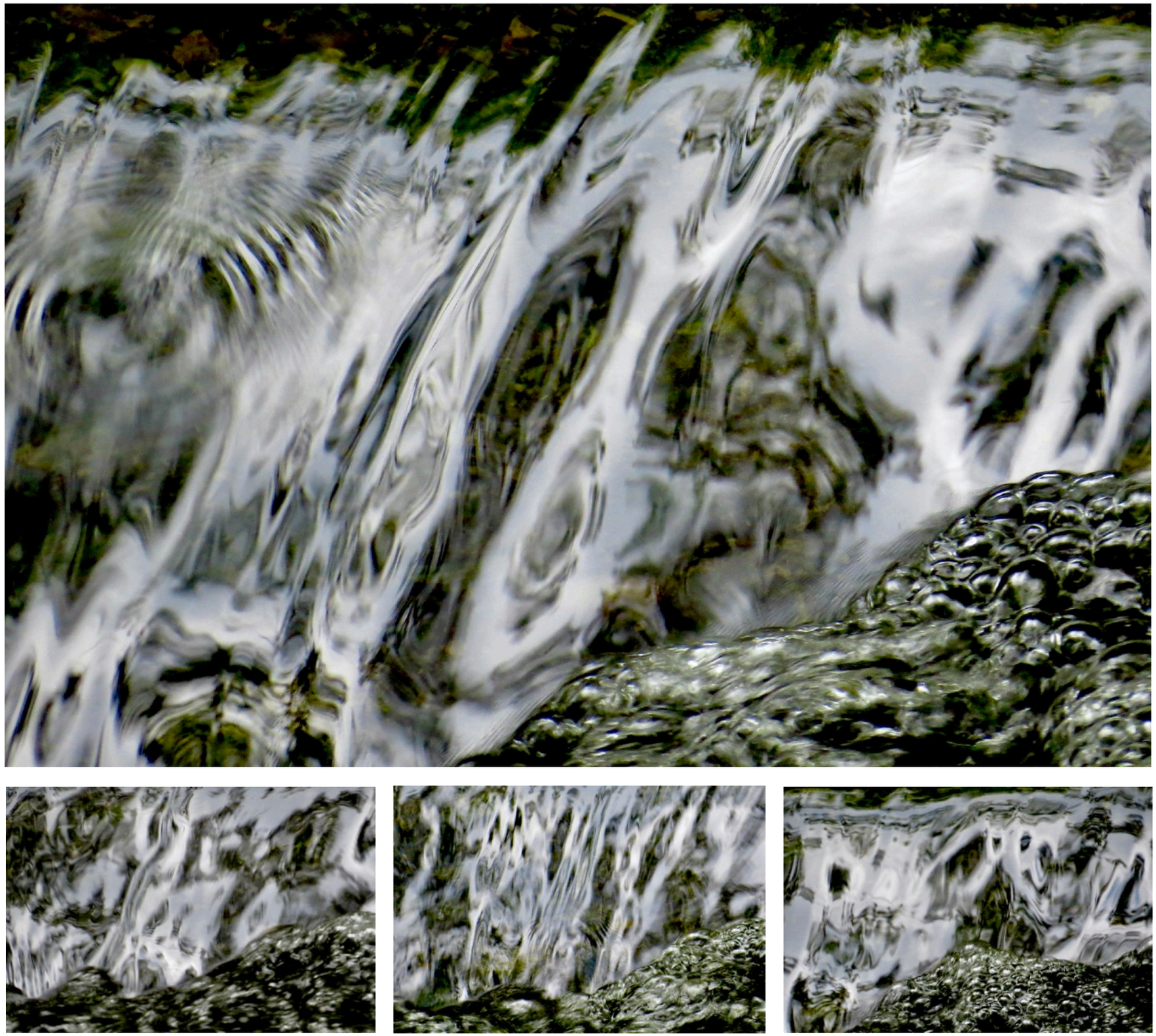
想像世界は
ひとりひとり
異なった世界だが

生きられる世界のなかで
共振しあっているとき
似通った世界を生きられもし

ときには
あえて異なる世界に
干渉することを選ぶこともあるだろう

それを愛と呼ぶか
それとも支配と呼ぶか

生きられる世界は
謎に満ちて
わたしたちのまえに
姿を現してくる



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3170　　2023.5.14

子どもは
子どものままでは
いられないけれど

どんなに年をとっても
子どものようでいることはできる

けれどそれは
子どもに戻ることじゃない

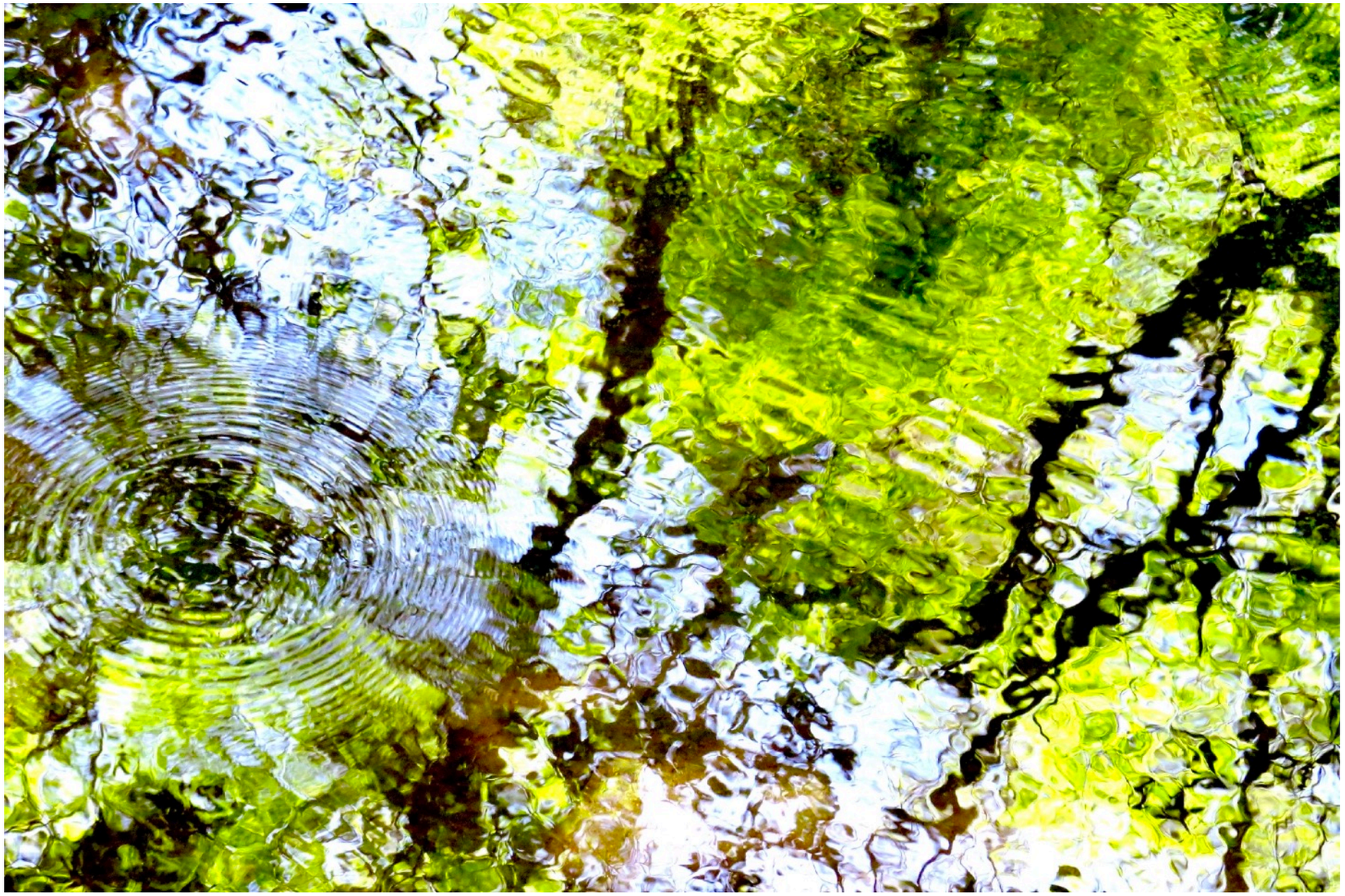
子どもに戻ることは
じぶんのなかの子どもを
忘れてしまうことだから

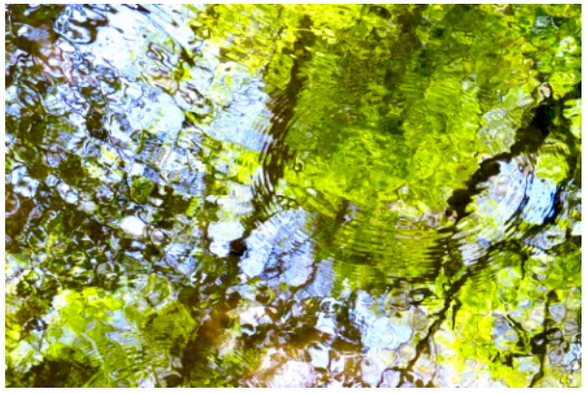
じぶんのなかの子どもを
忘れてしまったとき
子どもを子どもとしか見られなくなる
じぶんはもう子どもではないんだと

子どもがいつも外にしかいないと
子どものように
いつも新しく生きることができなくなる

いつも新しく生きることは
ほんとうに年を重ねていくことだ
年を重ねていくことで
子どものように生きることだ
そこに幼稚さはない

じぶんのなかの子どもを失くし
新しく生きることができなくなったとき
ひとは幼稚にしかなれなくなる





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3171　　2023.5.15

ドーナツの穴は
あるけれど
穴そのものはない
ように

穴は
たしかにあるのに
穴そのものだけを
とりだすことはできない

そことここの境界も
たしかにあるけれど
境界そのものを
とりだすことはできるだろうか

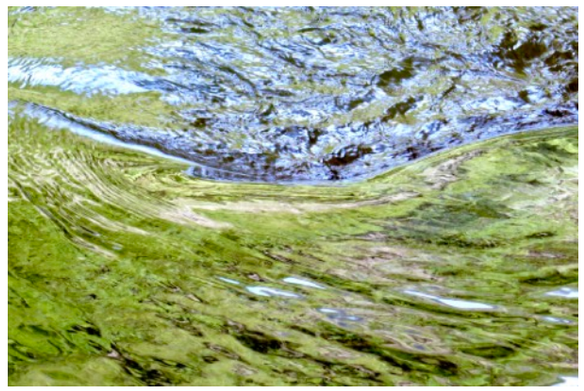
境界はそこにあるのか
それともここにあるのか

わたしとあなた
その境界も
ありすぎるほどに
たしかにあるのだけれど

その境界は
わたしにあるのか
それともあなたにあるのか
ほんとうはないのか

国の境界で
戦争が起こりもするように
国と国の境界は
たしかにあって
ときにそれが変わったりもするけれど
その境界の前で
わたしたちはその
存在と非在のあいだに立ち尽くすしかない

ドーナツを食べる
そのとき
食べる前にあった穴は
食べてしまった後には
いつのまにかなくなっている
そのようにはならないか



※愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3172　　2023.5.16

たとえ
どんな嵐のなかでも
じぶんの足で
歩いていけますように

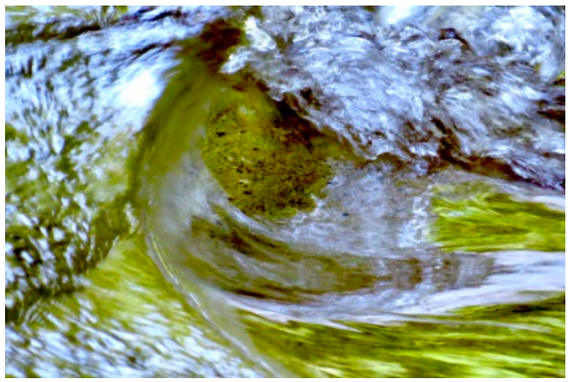
たとえ
どんな言葉のなかでも
じぶんの言葉を
持てますように

たとえ
どんなまなざしのなかでも
たしかなまなざしを
失くさないでいられますように

たとえ
どんな戦いのなかでも
自由な精神を
育てられますように

たとえ
どんな迷路のなかでも
アリアドネの糸を
見つけられますように

たとえ
どんな砂漠のなかでも
永遠の花を
咲かせられますように



※愛媛県久万高原町・面河渓にて

# ☆photopos-3173　　2023.5.17

わかることは
いいことだ

わかることで
わからないことが
さらにひらかれるならば

わからないのは
いいことだ

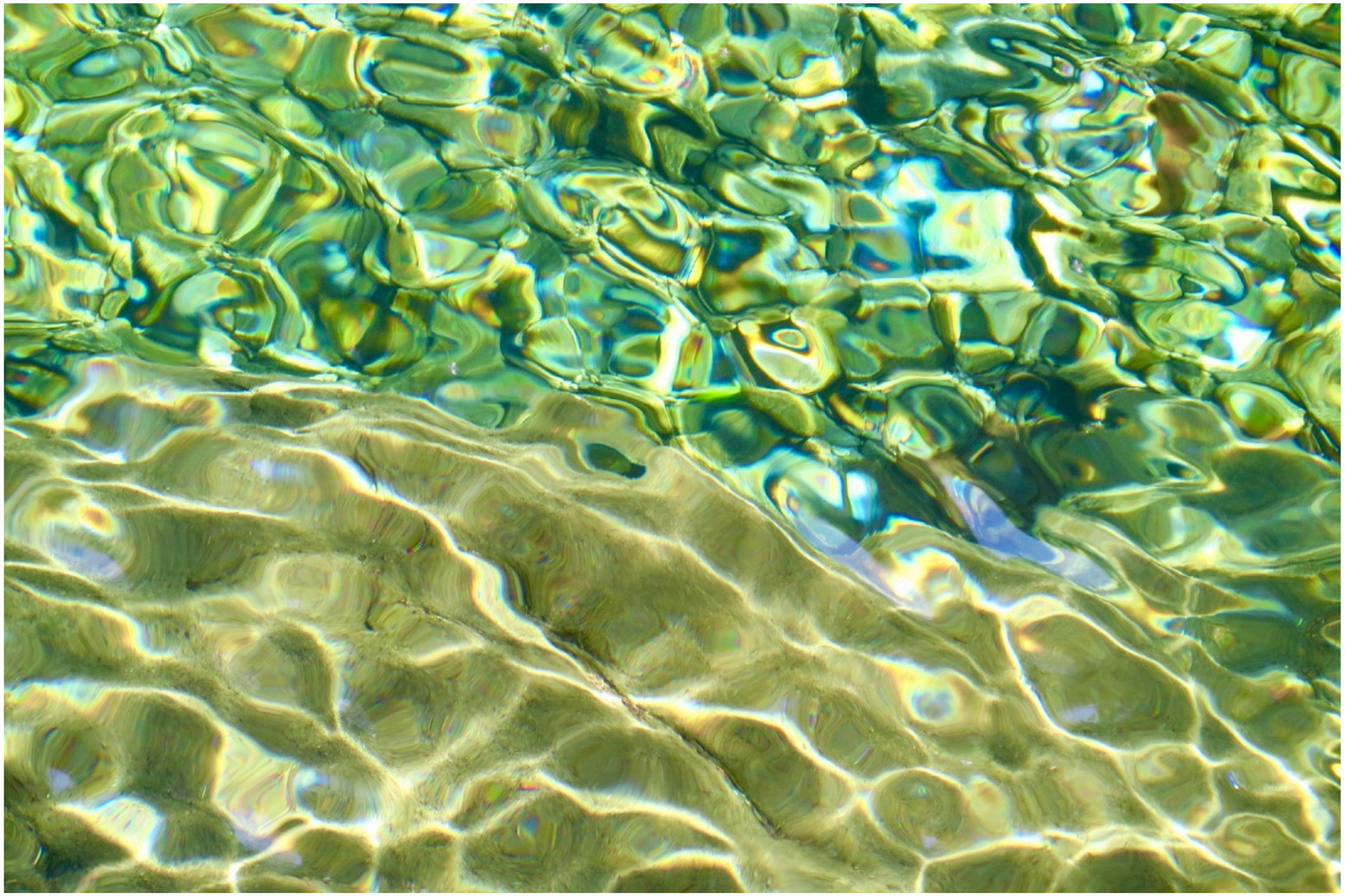
わけてしまうことで
わからないものが
みえなくなってしまうから

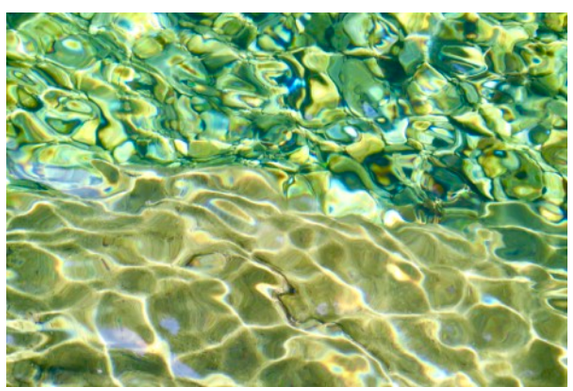
答えをだすのは
いいことだ

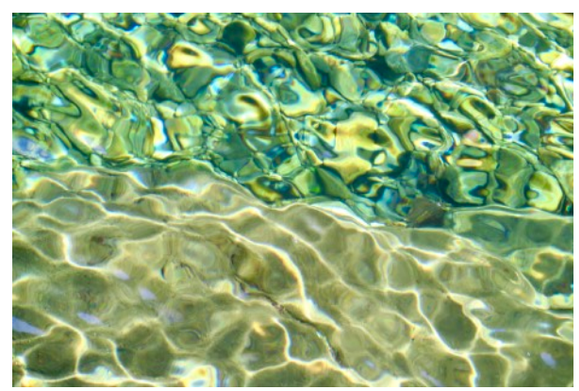
答えをだすことで
あらたな問いが
さらにひらかれるならば

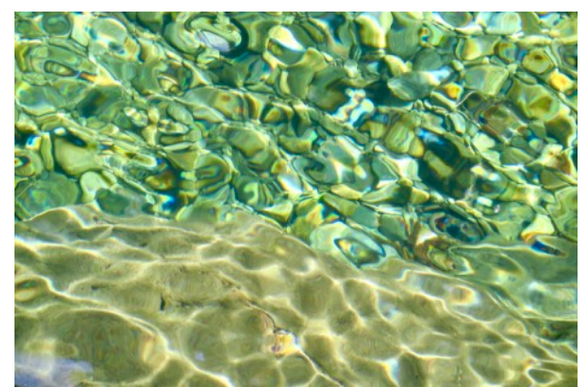
答えがないのは
いいことだ

答えをだしてしまうことで
答えのないものを
問うことができなくなってしまうから









※愛媛県久万高原町・面河渓にて

# ☆photopos-3174　　2023.5.18

いつか
この言葉は
だれかに
届くだろうか

ぼくの
知らない
はるかな
あなたという
だれかに

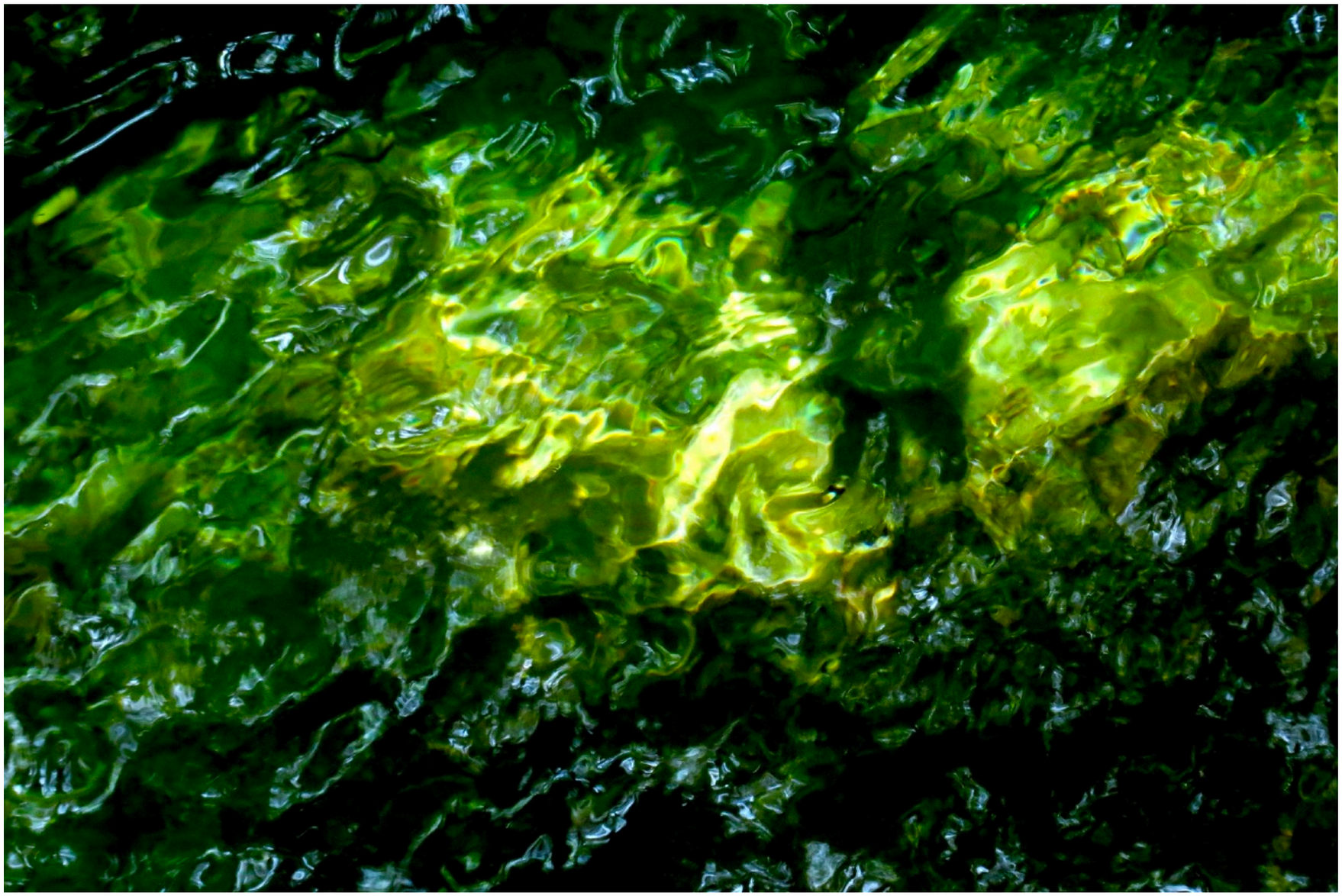
その言葉は
もうぼくの言葉ではない

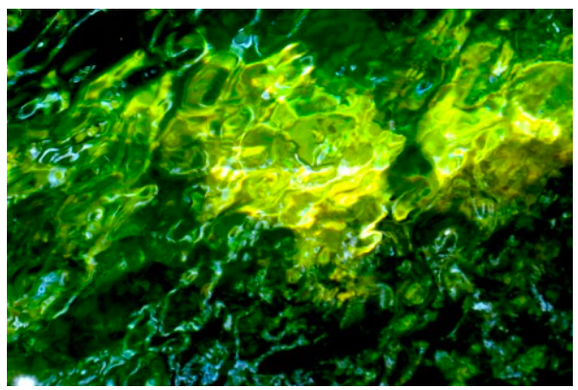
それは
あなたのなかで
変容していく言葉

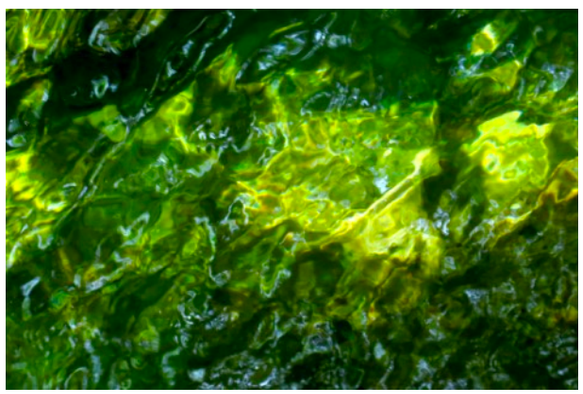
風とともに吹かれ
水となって流れ
鳥となって囀り
星となって燦めく
そんなあなたの歌となる

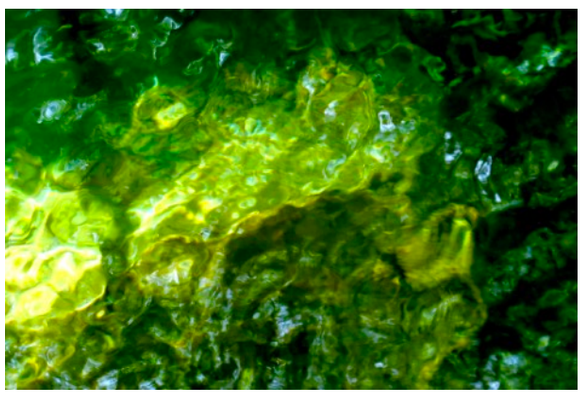
いつか
この言葉は
あなたに
届くだろうか

そんなことさえ
思うことなく
ぼくは歌うだけ









※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

# ☆photopos-3175　　2023.5.19

違うことで
問いは生まれ
問いはまた
違う問いを生む

違うことで
心は生まれ
心はまた
違う心を生む

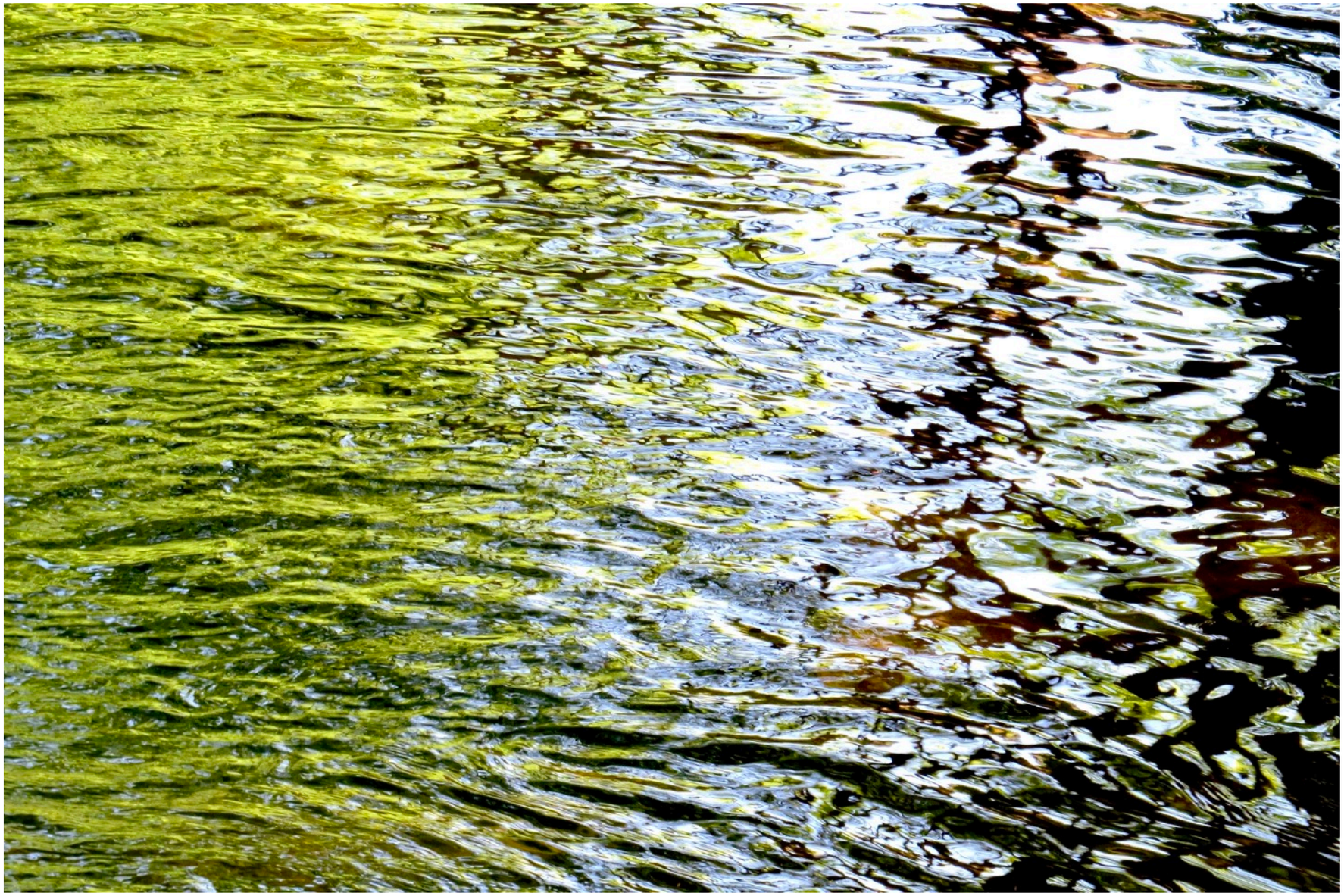
違うことで
愛は生まれ
愛はまた
違う愛を生む

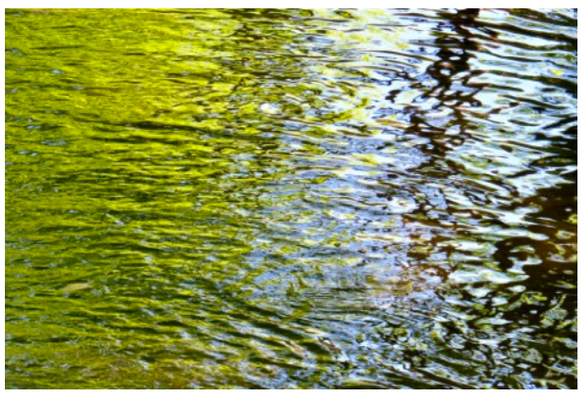
違うことで
時は生まれ
時はまた
違う時を生む

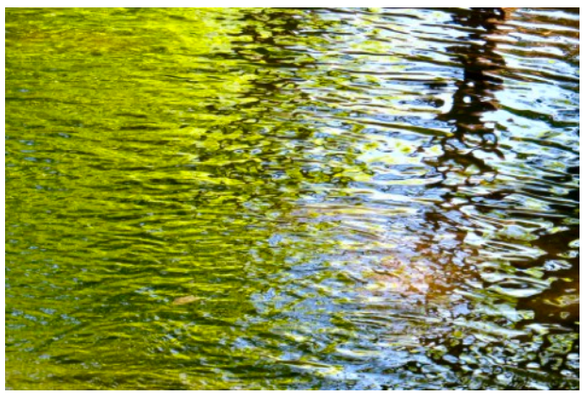
みんなが
おなじように
感じ考え行い

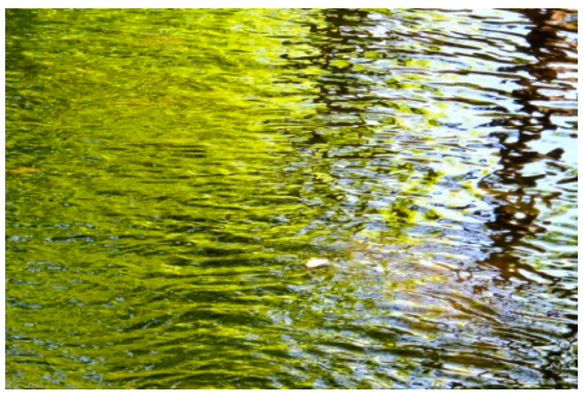
違うことが
許されなくなるとき
存在の生態系は死滅する

違うことで
わたしは生まれ
わたしはまた
違うわたしをも創り育てていく









※愛媛県久万高原町・古岩屋にて